

ギニアグラス新品種「パイカジ」および「うーまく」を用いた嗜好性試験

○幸喜香織・上間典子・森山高広・島袋宏俊
(沖縄畜研)

【目的】

本センターでは、沖縄県の土壌や気象条件等に適応した高収量・高品質な暖地型牧草の品種育成を行っており、2007年、ギニアグラス「パイカジ」、2012年、ギニアグラス「うーまく」の品種登録が完了した。現在、普及指導機関とともに、県内各地で「パイカジ」および「うーまく」の栽培・生産にかかる特性等検証し、栽培マニュアル等の作成を通じて、新品種の県全体への普及・定着を推進しているところである。

本報告では、「パイカジ」および「うーまく」とともに、海外で流通する品種の中から、本県の気象環境下において、有望と選定された品種を実証規模で栽培し、収量調査および乾草を用いた嗜好性試験を行ったので、報告する。

【材料および方法】

供試品種は、ギニアグラス「うーまく」、 「パイカジ」、ブラキアリアグラス「バシリスク」、セタリア「スプレнда」およびローズグラス「カタンボラ」とし、嗜好性試験については輸入乾草イタリアンライグラスを用いて、比較品種とした。

試験区作成について、供試5品種を2013年3月7日播種し、材料草として、2013年6月12日～28日および8月9日から9月2日に4から8日間かけて刈り取り、反転し、乾草を作成した。

嗜好性試験方法は、黒毛和種繁殖雌牛5頭(平均体重529kg)を用い、カフェテリア法により行った。飼槽には毎日ローテーションによって6品種の乾草を入れ替えた。午前9時30分に配合飼料500g/頭を給与後、2回/日、計9kg/供試材料の給与とし、残飼により1日あたりの採食量を比較した。試験期間は第Ⅰ期(2013年9月27日から10月2日(5日間)、第Ⅱ期(2013年10月15日から10月22日(8日間)である。

表1 収量調査

	1番草		2番草		合計		kg/a,%		
	生草収量	乾物率	乾物収量	生草収量	乾物率	乾物収量	生草収量	乾物率	乾物収量
カタンボラ	200	19	39	218	20	44	419	20	83
バシリスク	303	21	63	298	18	55	601	19	117
うーまく	319	19	50	313	18	45	631	18	94
スプレнда	358	16	55	440	11	48	798	13	103
パイカジ	395	19	72	295	18	52	690	19	124

【結果】

供試品種の発芽状況はバシリスクおよびパイカジが最も高く、次いでカタンボラ、うーまくの順となった。スプレндаは最も低くなった。初期生育はうーまくおよびパイカジが他の3品種より高くなった(表略)。造成1年目の合計乾物収量ではパイカジが最も高く、次いでバシリスク、うーまくの順となった(表1)。嗜好性試験では、試験Ⅰ期のパイカジは購入乾草より同等の嗜好性を示したが、うーまくは有意に低くなった。試験Ⅱ期ではギニアグラス2品種が高い嗜好性を示した。飼槽の場所(日当たり、水飲み場所)による有意差はなく、嗜好性への影響はみられなかった。

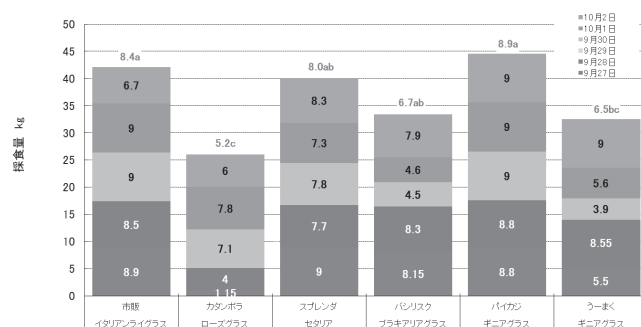


図1 嗜好性試験第Ⅰ期

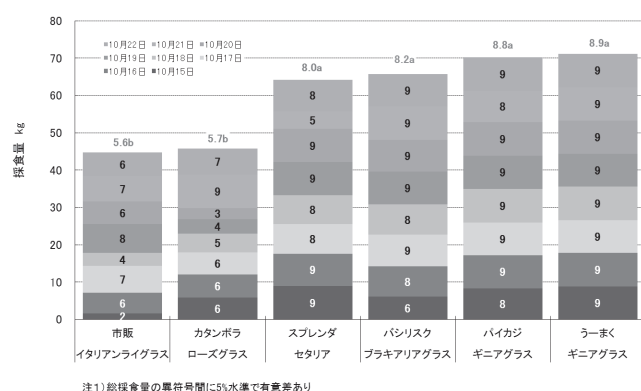


図2 嗜好性試験第Ⅱ期